学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	佐藤 大介
2. 審査委員	主査：（岡山大学特任教授） 尾上 雅信 副主査：（兵庫教育大学教授） 森廣 浩一郎 委員：（岡山大学教授） 高瀬 淳 委員：（岡山大学教授） 寺澤 孝文 委員：（岡山大学教授） 梶井 一暁
3. 論文題目	小学校英語におけるICT活用指導力育成のための教員養成カリキュラム開発に関する考察
4. 審査結果の要旨	<p>学校教育実践学専攻学校教育方法連合講座 佐藤 大介 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：令和6年2月10日（土） 10時00分～11時00分</p> <p>場所：オンライン会議</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>本論文は、教師のICT活用指導をめぐる近年の教育政策や社会的な要請を概観したうえで、小学校教員と教職課程履修学生を対象に、小学校英語教育におけるICT活用の現状と課題に関する調査・分析を行い、その調査結果に基づいて、小学校英語におけるICT活用指導力育成のための教員養成カリキュラム開発に向けた具体的な提言を試みたものである。以下に、本論文の構成と概要を示す（節以下のタイトルは省略）</p> <p>序章（研究の課題と方法・論文構成）</p> <p>第1章 教員養成とICT活用 ― 近年の教育政策と社会的動向を中心に</p> <p>第1章では、近年のICT活用にかかわる教育政策の動向（中教審答申・文科省資料など）を整理し、学校のICT化に対応した教員養成について概観するとともに、先行研究の成果</p>

を整理することにより、「小学校教員養成 外国語（英語）コアカリキュラム」の課題、小学校英語教育に必要なICT活用指導力とICT活用による教育的効果、ICT活用に関する教員と学生の不安や課題等について整理・概観した。

第2章 小学校英語教育におけるICT活用に関する小学校教員の現状と課題

以上の動向整理にもとづき、小学校英語に必要なICT活用指導力の指標として、Healeyら（2008, 2011）の研究成果である TESOL Technology Standards for Language Teacher Rubric を用いた調査を、小学校教員（257名）及び教職課程履修学生（376名）を対象に行った（第2章と第3章）。

小学校教員を対象とした調査では、ICTに関する基礎的知識、小学校英語指導におけるICT活用について一定の理解はあるが、授業でのICT活用においては児童の学習状況の把握や評価、オンライン上のコラボレーション、最新のICT活用教育に関する研修・情報収集などに課題があることを指摘した。

第3章 小学校英語教育におけるICT活用に関する教職課程履修学生の現状と課題

教職課程履修学生を対象とした調査からは、ICTに関する基礎的な知識・技能の習得に対して一定の自己評価はあるが、コミュニケーション、コラボレーション、効率性向上のためのICT活用や、ICT活用指導に必要な学習や最新の情報収集などに課題があることを明らかにした。

第4章 小学校教員と教職課程履修学生におけるICT活用に関する現状と課題の比較

以上の2つの調査をもとに第4章では、小学校教員と教職課程履修学生の調査結果を比較検討した。その結果、（1）言語指導・学習に必要なICTを理解する能力、（2）言語指導・学習を促すICTを活用した教育実践力、（3）言語学習において児童が効果的かつ適切にICTを活用するための指導力、という3つのコンピテンシー向上が課題となることを指摘した。

第5章 小学校英語におけるICT活用指導力育成のための教員養成カリキュラム開発に関する考察

以上の調査結果と比較検討を踏まえ第5章では、小学校英語にかかわる教員養成カリキュラム開発に向けた具体的な提言として、アプリケーション活用による英語運用能力の向上、児童の多様化対応のためのICT活用、学習指導案作成におけるビデオ会議や共同編集機能の活用、操作体験・経験によるICT活用に関する情報収集、スタディ・ログの活用、児童向け個別学習用教材の作成・配信など、具体的・実地的な指導方法を提案した。

終章（論文のまとめと今後の課題）

2. 審査経過

本論文は、小学校教員と教職課程履修学生を対象にして、小学校英語教育におけるICT活用の現状と課題に関する調査・分析を行い、その調査結果にもとづいて、小学校英語におけるICT活用指導力育成のための教員養成カリキュラム開発に向けた具体的な提言を試みたものである。

その審査においては、主に次の2点について従来の研究を凌ぐすぐれた成果をおさめていると評価された。第一に、ICT活用に関して小学校英語に特化して小学校教員ならびに教職課程履修学生の現状・意識調査を行ったこと、とりわけ具体的な指導にかかわる両者の不安の内容を明らかにし、共通点と差異について指摘できた点である。第二に、その調査結果にもとづき、小学校英語にかかわる教員養成に関して具体的な提言がなされた点である。これは実際の教員養成段階（教職課程）における「外国語の指導法」等の改善に寄与するのみならず、今後の研究、すなわち教員養成カリキュラム開発をめざすために重要な手がかりとなるものと評価された。

その一方で、本論文の不十分さも指摘された。たとえば、小学校教員養成課程 外国語（英語）コアカリキュラム以前の英語教育カリキュラムまでさかのぼって比較検討する必要があるのではないか、また来年度導入予定のデジタル教科書に関する検討が足りない、などの意見である。

しかしながら、全体として本論文は、小学校英語に特化した教員と学生に対する意識調査にもとづく具体的な指導法改善の提言により、今後の小学校英語教育のみならず、教員養成カリキュラム開発研究全体にかかわって有益な示唆と展望を与え、それにより教育実践学の構築にも大きく貢献するものであると評価された。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は、佐藤大介の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。